



茨城県遊技業協同組合
「新型コロナウイルス感染症に伴う職域ワクチン接種」
事業



茨城県遊技業協同組合
 理事長
 平文暉朗さん

選考理由

ワクチン難民で混乱した2021年秋。申請していたワクチンの供給が遅れ、そのため自治体などで接種を受けた従業員が多くなり、申請していた4,000人分のうち3,000人分の余剰が出た。組合ではこれを有効活用すべく、商工会議所等に呼びかけ広く一般に予約なしで無償提供することにした。実施に当たっては厚生労働省との交渉、会場の確保、日時の告知作業、医療従事者への対応、接種会場での運営・整理など一連の作業すべてを担った。茨城新聞をはじめNHKでも具体的に報道され、東京・近隣他県、遠くは北海道からも接種に。この機転を利かせた素早い行動は、多くの人々をコロナから守る盾となった。

社会貢献活動審査委員会
 委員
 脇田直枝氏



新型コロナウイルス
感染防止のため、
組合員ホール以外にも
職域ワクチン接種を実施

ホール従業員やその家族を対象に
新型コロナワクチンを無償で接種

2020年の年初に始まり、いまだに収束と言える状況に程遠い新型コロナウイルスの感染だが、この間、ホールの休業なども含め、遊技業界へも多大な影響を及ぼした。そのような状況下で感染防止対策の要として期待されるワクチン接種だが、一時はワクチンの確保量が足りない、配布が遅れているなどの理由から、接種したくてもなかなか接種できないという問題が生じた。

こうした状況を改善しようと、茨城県遊技業協同組合では新型コロナウイルス感染症の拡大防止や各ホールへ来場する遊技客へのまん延防止を目的として、2021年9月13日から10月17日にかけて水戸市泉町の中央ビル4階特設会場で、県内の組合員ホール従業員およびその家族を対象に新型コロナワクチンの職域ワクチン接種を無償で実施した。茨城県が行う大規模接種は18歳以上とされていたが、同組合が実施した職域接種では12歳以上を対象としたことから、接種を受けた組合員などから「子どもや家族も接種を受けることができ感謝しています」といった声が多く寄せられた。

接種の実施にあたっては、業務を委託した株式会社リーパーの職員をはじめ、医療従事者(医師、看護師、看護助手)など毎日8名が専従したほか、補助者として同組合副理事長を筆頭に理事や事務局員が連日、接種者の名簿作成や申し込み者・申し込み希望者への対応などにあった。



県内の組合員ホール従業員およびその家族を対象に新型コロナワクチンの職域接種を無償で実施



2回目のワクチン接種では、他県の県遊協、関係団体、企業などにも呼びかけ、希望者に対して職域接種を実施

職域接種用のワクチンの余剰分を
一般を対象に3,000人分提供する

さらに同組合では、2回目のワクチン接種に際して予約状況などから約3,000名分のワクチンが余る可能性が判明したため、水戸市商工会議所、ひたちなか商工会議所、他県の県組合、関係団体、企業などにも呼びかけ、希望者に対して職域接種を行った。

同組合によると、職域ワクチン接種は当初、組合員ホールの従業員やその家族を対象に7月21日に開始する予定だったが、ワクチンが届くのが遅れ、自治体などが実施する接種を先に受けた人が多くなり、供給された4,000人分のうち約3,000人分が余ったため、一般向けに広く提供することにしたという。この接種には関東一円はもとより、遠くは北海道や兵庫県などから駆けつけた人もいた。特に商工会議所に所属する会員は自営業者が多く、「顧客と接する際に安心感を持てた」という声が寄せられたほか、遊技業界とも関係が深いヤクルトレディなどからも「販売顧客に対して安心して販売ができた」という声をもらった。

同組合が実施した職域接種では、のべ3,940人が接種を受けたが、参加した各企業や関係団体、商工会議所、行政機関である茨城県の新型コロナワクチン接種チーム、県内各市町村などから高い評価を受けるとともに感謝状などを贈られたという。